

諏訪地域の課題

地域の特長

- ・県内有数の観光地であり、憩いの場、健康づくりの場としても親しまれる「諏訪湖」を擁し、自然環境に恵まれ、雲上ドライブが楽しめるビーナスラインで名高い「八ヶ岳・霧ヶ峰」に囲まれた緑輝く地域
- ・中央自動車道、JR中央本線等の大動脈の結節点であり、首都圏及び中京圏からのアクセスに恵まれている。
- ・諏訪大社御柱祭(20万人の氏子が一致団結)、縄文(2つの国宝)など、数多くの伝統文化や貴重な歴史的資源を有している。
- ・シルクから精密機械工業、スマートデバイス(超精密部品)の世界的産地形成を進める工業、自然や文化などの資源を活かした観光、八ヶ岳山麓の高原野菜や花きを中心とした農業など、全国に誇り得る産業が集積

→キーワード:「**諏訪湖**」「**八ヶ岳・霧ヶ峰**」

地域の課題

- ・人口減少社会への対応
- ・諏訪湖のヒシの大量繁茂、湖底の貧酸素状態への対応
- ・八ヶ岳・霧ヶ峰の生態系や景観の保全
- ・通過型観光地から滞在型観光地への転換
- ・地域に活力を与える産業の基盤強化
- ・地域の将来を担う人材育成
- ・健康でアクティブに暮らせる地域の構築
- ・交通の利便性向上、道路ネットワークの整備
- ・大規模地震を想定した防災体制整備、水害への対応

地域のシンボル「**諏訪湖**」「**八ヶ岳・霧ヶ峰**」をキーワードに、**複数の現地機関が一体となって取り組むべき課題を選定**

H29年度 「横断的な課題」

① 諏訪湖を活かした
まちづくり

② 八ヶ岳・霧ヶ峰の魅力
を活かした広域観光

諏訪湖を活かしたまちづくり

～ 輝く諏訪湖周の創出 「泳ぎたくなる諏訪湖」「シジミが採れる諏訪湖」を目指して ～

1 現状と課題

- 諏訪湖は、地域の文化・産業・観光の源泉
- 水質は中長期的には改善傾向にあるが、ヒシの大量繁茂、湖底の貧酸素が新たな課題
- 昨夏のワカサギ等大量死、魚食性鳥類による食害実態に係る調査、対策が必要
- 観光客は減少傾向にあり、諏訪湖を活かした観光振興が必要
- ジョギング、サイクリング、ウォータースポーツ等、健康づくりの場としての利用促進

2 目指す方向

- 諏訪湖や水辺空間の利活用による魅力向上や、諏訪湖のポテンシャルを最大限に引き出し、地域の活力を創出
 - ・諏訪湖の環境改善
 - ・諏訪湖の魅力を活かした広域観光
- 「環境」「健康」「安心」「観光」など、多様な取組の連携
- 官民の壁を越えた連携

3 平成29年度の主な施策(予定)

※太字は振興局が自ら実施

- 新** (1)「**諏訪湖創生ビジョン**」の策定～ 県民意見を聞きながら諏訪湖のあるべき姿を提示～
 諏訪湖の水環境や生態系の保全、水辺整備、利活用の取組をトータルで示す
- ・地域懇談会、市町村長との意見交換会、ワーキンググループの開催等
 - ・諏訪湖に関する住民アンケート調査

(2)諏訪湖環境改善の取組推進

- ・水草刈取船が入れない湖内沿岸域のヒシの除去
- 新**・流入河川に繁茂するヒシの除去
- 新**・住民団体等との協働プロジェクトの検討
- ・水草刈取船による湖内のヒシ刈取り、沈澱ピット、植生水路による水質浄化(建設)
- 新**・水中ドローンを利用した湖底形状調査(建設)
- ・湖内の発芽直後のヒシ種子除去、モニタリング(水試・水大気環境課)
- ・シジミ増殖の実証実験及び技術開発(水試・水大気環境課)

(3)諏訪湖畔でアウトドアを楽しむ環境づくり

- 新**・川と遊び、川で学ぶ観光地域づくりイベント(カヌー体験等)の開催
- 新**・かわまちづくり計画作成、申請支援(建設)
- ・諏訪湖周サイクリングロードの整備(建設)
- ・流入河川の堆積土除去(カヌーが楽しめる環境整備関連)(建設)
- ・諏訪湖周及び周辺での自転車等の活用について研究

4 成果(目標)

- ・H30.3 「諏訪湖創生ビジョン」の策定
- ・水質の向上、ヒシの繁茂抑制による沈水植物等の回復
- ・遠浅の砂地造成によるシジミの復活
- ・サイクリングロードの整備、利活用の促進

八ヶ岳・霧ヶ峰の魅力を活かした広域観光

～「諏訪の国」の魅力向上～ 「縄文」・「ビーナスライン」・「ユニバーサルツーリズム」

1 現状と課題

- 八ヶ岳・霧ヶ峰を中心としたエリアは、縄文文化の宝庫
- 蓼科、白樺湖、車山高原、霧ヶ峰等、主要観光地が「ビーナスライン」で連結
- 旅行形態の多様化や高速交通網の変化への対応が遅れ、観光客数は大きく減少
- 富士見高原から始まったアウトドアを基軸とした「ユニバーサルツーリズム」の広域展開

2 目指す方向

- 「諏訪の国」の観光地域づくり
 - ・縄文に親しむ心豊かな暮らしの実現
 - ・自然環境、景観の保全
 - ・「山の恵み」の利活用
 - ・誰でも楽しめるアウトドアリゾートの構築
- 県域(山梨県)・圏域(佐久、上田、松本)を越えた広域観光推進体制の構築
- 官民の壁を越えた連携

3 平成29年度の主な施策(予定)

※太字は振興局が自ら実施

新 (1)日本遺産「縄文」の取組推進 (H29.2 文化庁へ申請、H29.4頃 認定予定)

- ・文化遺産活性化協議会(仮称)の設立支援
- ・縄文関係史跡等活用事業支援
- ・魅力的な着地型体験メニュー、観光素材の開発

(2)「ビーナスライン」ブランドの再構築

- ・外来植物・優占植物除去による高原の植生の回復
- ・ニホンジカの食害から植生を保護するための防護柵の設置

新 信州DCと連携した情報発信、受入環境の整備

- ・SNS等を活用したエリア全体の情報発信、エコレンタカーを活用した広域周遊の促進(信州ビーナスライン連携協議会)
- ・安全で快適な道路整備と維持管理(建設)
- ・地域住民が主体となって行う景観整備に関する実施計画策定や事業実施への支援

(3)誰でも楽しめる「ユニバーサルツーリズム」

新・ユニバーサルツーリズムをテーマとする講演会等の開催

新・ユニバーサルツーリズム推進協議会(仮称)の設立支援

- ・モニターツアー、地域トラベルサポーターの育成等の支援(関連団体)
- ・高齢者の社会参加活動の支援(県長寿社会開発センター)

4 成果(目標)

- ・日本遺産「縄文」の認定・活用
- ・「ビーナスライン」の利活用による観光客の増加
- ・ユニバーサルツーリズムを推進する体制の構築